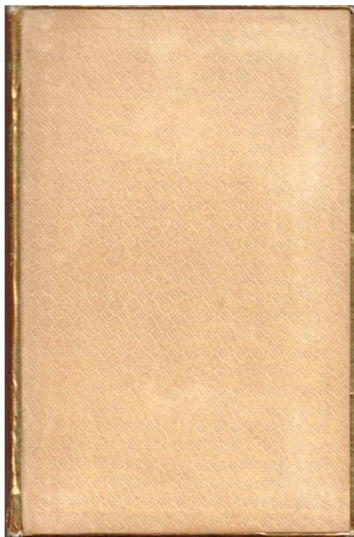


『ロッシーニ・フランセ』(パリ、1823 年) (水谷彰良コレクションより)

ロッシーニが初めてパリを訪れたのは 1823 年 11 月 9 日、ロンドンに向かう旅の途上だった。同月 16 日にはパリの名士たちによるロッシーニ歓迎宴会がレストラン「ヴォーキテット」の大広間で開かれた。このパリ訪問に合わせて刊行されたのがスタンダード『ロッシーニ伝 (Vie de Rossini)』であるが、同時期にもう 1 冊、題名にロッシーニを含む本が出版されている。それが『ロッシーニ・フランセ (Rossini Français)』である。

タイトル頁は堅琴を弾くキューピッドの挿絵入りで、次の記載がある——ROSSINI / Français. / PARIS / LOUIS JANET, LIBRAIRE, / Rue St Jacques N.o 59. [1823. II,156p.+6 図版]。

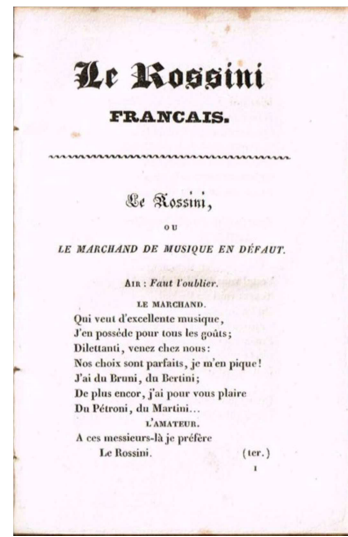
全 156 頁は詩と楽譜で構成され、最初の 100 頁はシャンソンやエールの歌詞、続く 56 頁は楽譜とその歌詞が伴奏なしで掲載されている (別に 6 点の挿入図版あり。サイズは 12×7.5cm)。最初の詩は「ル・ロッシーニ、または間違った音楽商人 (Le Rossini ou Le Marchand de musique en défaut)」と題した作者不明の戯作で、さまざまな作曲家の音楽を勧める楽譜商に対して音楽愛好家がロッシーニ作品をほしがりを滑稽に描く。掲載楽譜の一つはロッシーニ作品で、タンクレーディのカヴァティーナが 3 頁を使って掲げられている (133-35 頁)。末尾にノンブルなしで 8 頁分の「1824 年のためのカレンダー (Calendrier pour l'an 1824)」があり、1823 年の出版と判る (ロッシーニのパリ訪問に合わせて 1823 年末に翌 1824 年の暦を付して出版。1824 年とする書誌は誤り)。



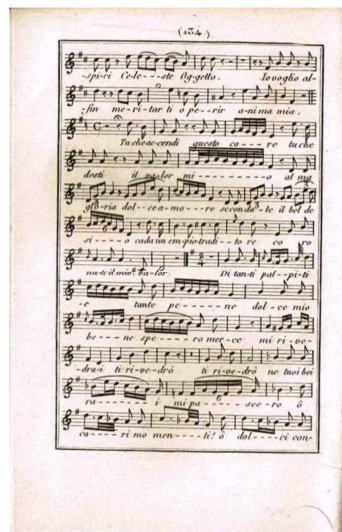
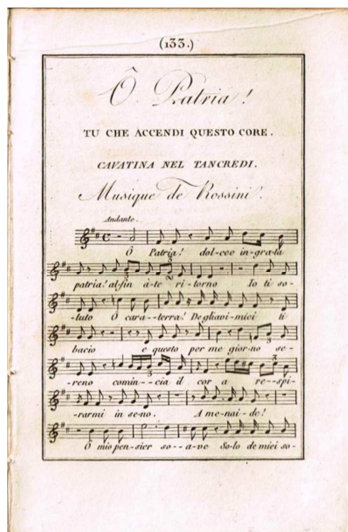
外装



タイトル頁



冒頭頁[p.1]



タンクレーディのカヴァティーナの楽譜(旋律と歌詞のみ。旋律に若干の異同あり)